

## 母性看護学

### 【科目構成とねらい】

母性看護学は、看護の対象である人間を「性と生殖に関する健康と権利—リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の視点からとらえ、人間のライフサイクルを通して健康を維持・増進することを目的としている。人間が持つ母性・父性の役割・機能を健全に発揮できるようにするために、人間の一生、すなわち胎児期から乳幼児期、思春期、成熟期、更年期、老年期に至るまでの女性とその家族を対象として関わる科目である。

少子高齢社会の中で、次世代の健康への支援は、重要な社会問題となっている。そのため、社会の最小単位である家族が再編整備され、健やかに機能する必要がある。そして地域社会における多様な家族の在り様を踏まえ、周産期を含めたライフステージ各期の女性及びその家族への支援を考えるべきである。国においても様々な政策を策定し、女性の社会への参画を推進し、且つ、安心して子どもを産み育てることができる環境づくりを行っている。このような背景をふまえて、以下のように学習していく。

### 「母性看護学概論」

母性看護学の概念と母子保健に関わる社会の動向について学習する。基礎となる概念として、母性および父性の概念、母子関係と家族発達、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、社会の変化に伴う母性看護の変遷とありかたについて学ぶ。また、セクシュアリティの視点から見た性の多様性や個と家族の発達や課題について学ぶ。ライフサイクル各期の中でも思春期、成熟期、更年期、老年期に焦点を当て、各期の健康と看護、その連続性について学ぶ。人間の性と生殖に関する問題を抱える人達も対象とし、その看護の必要性についても学ぶ。形態機能学と関連させ、人間の性行動について学ぶ。さらに母性看護では、生命そのものの尊厳や神秘性に触れることも多いため、生命倫理や看護倫理についても学びを深める。

### 「妊婦・産婦の生命の育みを支える看護」

妊婦・産婦とその家族の看護に必要な学習をする。妊婦を理解するために、妊娠各期における胎児の発育と、妊娠が母体に及ぼす身体的・心理的影響を学ぶ。また、家族構成の変化に伴い、パートナーや家族の役割の変化など、社会的な側面について学ぶ。そして、妊婦およびその家族の看護や健康相談・教育の方法を具体的に学ぶ。産婦の理解のためには、分娩の生理と経過、心理的特徴を学び、家族を含めた看護を学ぶ。その上で妊婦・産婦の看護に必要な看護技術について学習する。正常妊産婦を中心に、正常逸脱時の観察と看護についても学ぶ。

### 「褥婦・新生児の生命の育みを支える看護」

褥婦・新生児とその家族の看護に必要な学習をする。産褥期の身体的・心理的・社会的特徴を学び、褥婦とその家族への支援について学習する。また、新生児の解剖的・生理的特徴と看護を学ぶ。さらに、母子相互作用を促し、絆を深めるための支援を学ぶ。そして褥婦とパートナーをはじめとする家族が、再編された家族状況に適応し、今後の育児を地域社会の中で円滑に行えるような支援システムについても学ぶ。その上で褥婦・新生児の看護に必要な看護技術について学習する。また、正常褥婦・新生児を中心に、正常逸脱時の看護についても学ぶ。妊娠・分娩・産褥は、生理的現象であるが、正常に経過しているか判断するには、生理的な経過や異常の早期発見のための知識を必要とする。そして、既習の主な疾病の病態生理と治療についての知識を活用し、正常逸脱時の看護について学ぶ。新生児期は、胎外生活に適応する過程で異常が発症しやすい。新生児の異常については小児看護学の対象となるが、出生直後や早期新生児にみられるため、一般的に周産期病棟で治療・看護される異常について学ぶ。

### 「生命の育みを支える看護の展開」

母性看護の特徴であるウェルネス志向の考え方にに基づき、正常な経過をたどる褥婦ならびに正常な経過から逸脱した事例についても学習する。新たな家族が誕生し、母児の心身の変化を踏まえながら、家族の役割を調整し地域社会の中で健やかに生活を営むための援助の視点について学ぶ。

## 【目的】

性の側面を踏まえて、総合的に人間を捉えるとともに、妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人とその家族の看護を实践できる基礎的能力を養う。

## 【目標】

- 1 母性看護の概念と母子保健に関わる社会の動向を理解できる。
- 2 母性看護の対象となる人のライフサイクル各期の特徴と看護を理解できる。
- 3 妊娠・分娩・産褥・新生児期にある人の特徴と看護を理解できる。
- 4 周産期にある人や母性看護の対象となる人への看護実践の基礎を習得する。
- 5 様々な状況にある母性看護の対象となる人が地域社会において、より良く適応するための支援システムについて考えられる。

## 【構成および計画】

授業科目	単位数	履修時期		
		1年	2年	3年
母性看護学概論	1(30)	○		
妊婦・産婦の生命の育みを支える看護	1(30)		○	
褥婦・新生児の生命の育みを支える看護	1(30)		○	
生命の育みを支える看護の展開	1(15)		○	
計	4(105)	1(30)	3(75)	

## 授業計画

科目名	母性看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. 母性看護の基盤となる概念と母子保健の動向・関係法規について理解する。 2. 女性のライフサイクル各期の特徴と健康問題と看護について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	母性看護の概念	母性、父性・親性の概念と定義 家族機能・家族の定義 母性看護におけるウェルネスの考え方 女性を中心としたケア、家族を中心としたケア	講義	専任教員*		
第2回	人間の性	人間の性 性の多様性 セクシュアリティ(セックス、ジェンダー)	講義 演習	専任教員*		
第3回	母性看護と倫理	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 性と生殖に関する倫理的課題	講義	専任教員*		
第4回		母性看護における倫理	講義 演習	専任教員*		
第5回	母性保健の動向	母性看護の歴史的変遷 母子保健統計(世界・日本)	講義	専任教員*		
第6回		母性看護に関する法律 母子保健施策 *子育て世代包括支援システム	講義	専任教員*		
第7回		国際化と母性看護 災害時の母子支援	講義	専任教員*		
第8回		女性のライフサイクルの連続性と家族 現代女性のライフサイクル 母性看護における対象把握の視点	講義	専任教員*		
第9回	ライフサイクル各 期の特徴と看護	思春期の特徴 身体的特徴・第二次性徴 心理的・社会的特徴と家族	講義	専任教員*		
第 10 回		思春期の健康問題と看護 月経異常、性感染症・人工妊娠中絶 性教育・避妊・性感染症予防	講義	専任教員*		
第 11 回		成熟期の特徴 身体的・心理的・社会的特徴(家族役割含む)	講義	専任教員*		
第 12 回		成熟期の健康問題と看護 不妊症、不育症、女性生殖器疾患 家族計画・受胎調節法	講義	専任教員*		
第 13 回		更年期・老年期の特徴 身体的・心理的・社会的特徴(家族役割含む) 更年期・老年期の健康問題と看護 更年期障害 性ホルモン分泌低下に伴う疾患と看護	講義	専任教員*		
第 14 回		各ライフステージにおける健康課題と対策	演習	専任教員*		
第 15 回		評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点	
備考						

## 授業計画

科目名	妊婦・産婦 <sup>いのち</sup> の生命の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 妊娠経過と看護について理解する。 2. 分娩経過と看護について理解する。 3. 妊婦・産婦の看護における安全について理解する。 4. 正常な経過を逸脱した妊産婦の看護について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	妊婦の看護	妊娠の成立 胎児の発育とその生理	講義	専任教員*		
第 2 回		妊婦の生理的変化 妊婦・家族の心理的・社会的変化と適応	講義	専任教員*		
第 3 回		妊婦の健康管理・セルフケア支援 妊娠の経過に合わせた日常生活援助	講義	専任教員*		
第 4 回		出産・育児準備への支援 親・家族役割準備への支援	講義	専任教員*		
第 5 回	治療が必要な妊 産婦の看護 1)	ハイリスク妊娠 切迫流産、切迫早産 前置胎盤 妊娠期の感染症	講義	専任教員*		
第 6 回		妊娠悪阻、妊娠貧血 糖代謝異常妊娠 妊娠高血圧症候群	講義	専任教員*		
第 7 回	妊婦の看護技術	妊婦の診察(子宮底長測定、レオポルド触診法、 胎児心音聴取)、妊婦疑似体験	校内 実習	専任教員*		
第 8 回	産婦の看護	分娩の経過 産婦の生理的変化	講義	専任教員*		
第 9 回		産婦・家族の心理的・社会的状態 産婦と胎児の健康管理	講義	専任教員*		
第 10 回		分娩各期の看護	講義	専任教員*		
第 11 回		分娩各期の看護、母児の安全	講義	専任教員*		
第 12 回	治療が必要な妊 産婦の看護 2)	前期破水 胎児機能不全 陣痛異常(微弱陣痛・過強陣痛)	講義	専任教員*		
第 13 回		分娩時異常出血 帝王切開術	講義	専任教員*		
第 14 回	産婦の看護技術	産痛緩和、分娩時の呼吸法	校内 実習	専任教員*		
第 15 回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

## 授業計画

科目名	褥婦・新生児の <sup>いのち</sup> 生命の育みを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 産褥経過と看護について理解する。 2. 新生児の経過と看護について理解する。 3. 褥婦・新生児の看護における安全について理解する。 4. 施設退院後の家族の看護について理解する。 5. 正常な経過を逸脱した褥婦・新生児の看護について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	褥婦の看護	産褥の経過 褥婦と家族の心理 母児の愛着形成過程	講義	専任教員*		
第 2 回		褥婦の日常生活とセルフケア	講義	専任教員*		
第 3 回		育児技術に関わる看護 家族関係再構築への看護 褥婦の安全	講義	専任教員*		
第 4 回	治療が必要な褥婦の看護	子宮復古不全 産褥期の発熱(産褥熱、乳腺炎) 産褥期精神障害	講義	専任教員*		
第 5 回	褥婦の看護技術	褥婦の全身観察	校内 実習	専任教員*		
第 6 回		授乳時の援助				
第 7 回	新生児の看護	新生児の生理的変化とその経過①	講義	専任教員*		
第 8 回		新生児の生理的変化とその経過② 出生直後の新生児の看護(新生児蘇生も含む)	講義	専任教員*		
第 9 回		早期新生児の日常生活の看護①	講義	専任教員*		
第 10 回		早期新生児の日常生活の看護② 新生児の安全	講義	専任教員*		
第 11 回	治療が必要な新生児の看護	高ビリルビン血症 新生児ビタミン K 欠乏性出血症	講義	専任教員*		
第 12 回	新生児の看護技術	新生児の観察	校内 実習	専任教員*		
第 13 回		新生児の沐浴・清拭				
第 14 回	施設退院後の母児への看護	家族と地域社会の関係性 地域ケア体制づくり、地域ケアシステム チーム医療、多職種連携、訪問看護 切れ目のない支援	講義	専任教員*		
第 15 回	評価		評価 方法	筆記 100 点		
備考						

## 授業計画

科目名	生命の育みを支える看護の展開		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1 正常な経過の妊婦・褥婦・新生児と家族の看護展開について理解する。 2 正常な経過を逸脱した褥婦と家族の看護展開について理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 *実務経験のある教員		
第 1 回	正常な経過の妊婦・褥婦・新生児と家族の看護展開	母性看護における看護過程の特徴 ウェルネス型看護診断	講義	専任教員*		
第 2 回		Case learning (1) (正常分娩の事例) 妊娠期の事例展開	講義 演習	専任教員*		
第 3 回		産褥期・新生児期の事例展開① 情報収集 アセスメント	演習	専任教員*		
第 4 回		産褥期・新生児期の事例展開② マタニティ診断 介入計画の立案 *退院後の家族役割調整の視点を含む	演習	専任教員*		
第 5 回		産褥期・新生児期の事例展開③ 保健指導の実際(ロールプレイ)	演習	専任教員*		
第 6 回	正常な経過を逸脱した褥婦と家族の看護展開	Case learning (2) (帝王切開の事例) 緊急帝王切開で分娩をした褥婦の看護	講義 演習	専任教員*		
第 7 回		Case learning (3) (死産の事例) 児を亡くした褥婦・家族への看護 *家族を含めたグリーフケア	講義 演習	専任教員*		
第 8 回	評価		評価 方法	筆記・レポート 100 点		
備考						